

令和4年度スポーツ庁委託事業
「障害者スポーツ推進プロジェクト」
(コーディネーター配置事業)

成果報告書



令和5年3月

パラスポーツくまもと
(しょうがいスポーツリンケージくまもと)

代表機関 NPO 法人A-l i f e なんかん

目次

I 障がい者スポーツ推進プロジェクト	
1 事業の目的	2
2 実施事業の概要	2
3 事業効果	4
4 まとめと今後の課題	4
II 実行委員会	
1 会議の目的	5
2 検討事項	5
3 構成員	5
4 成果及び評価	6
III 実施事業	
1 福祉・教育・競技団体等との連携についての具体的な取組	
(1) 事業の目的	7
(2) 事業の実施概要	7
(3) 取組内容	7
(4) 成果及び評価	20
2 コーディネーターに求める資質・資格等の要件	
(1) 事業の目的	21
(2) 事業の実施概要	21
(3) 取組内容	21
3 障害者本人や家族・支援者、スポーツ関係団体・スポーツ施設等からの相談に対応するための窓口についての具体的な取組内容	
(1) 事業の目的	24
(2) 事業の実施概要	24
(3) 取組内容	24
(4) 成果及び評価	30
IV 報告書概要版	

I 障がい者スポーツ推進プロジェクト

1 事業の目的

さまざまな個性を持った障がい者は気軽にスポーツに親しむ場も選択肢も現在限られている。

この課題の解決には、まず障がい者とスポーツの場を繋ぐことと併せて、障がい者特有のスポーツ実施における課題や障壁を洗い出しその解消への取り組みが必要である。県内各地域で課題解決に向けたこれらの実践と地域の実情に合わせた展開を促すことで、障がいの有無にかかわらず全ての人が、障がい者スポーツを含め生涯にわたってスポーツに親しめる「場」を地域につくり定着させ、スポーツを通じた共生社会の実現を目指す。

2 実施事業の概要

(1) 障がい者スポーツコンソーシアム「パラスポーツくまもと」の構成図

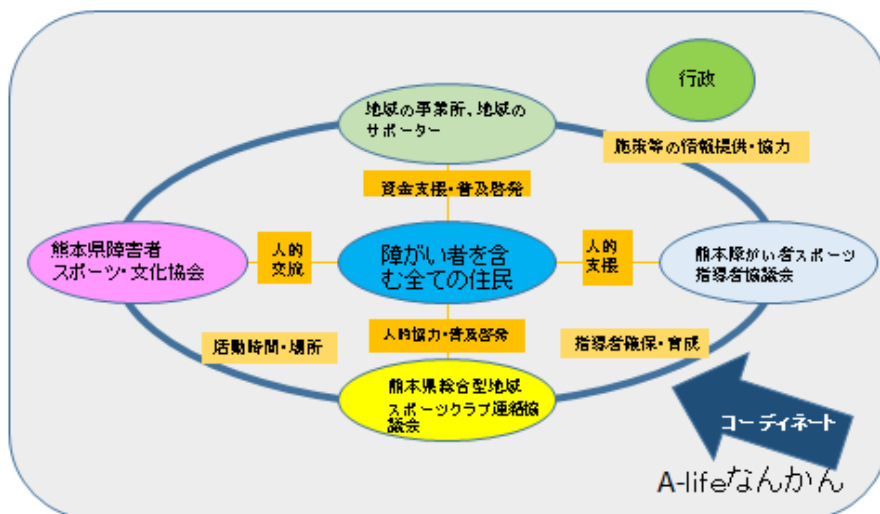
事業を遂行するにあたり、本コンソーシアムにて会議を開催し、事業の適合性や各事業の取り組みの進捗状況の確認、成果と課題改善点を協議し共有し、普及啓発を推し進める。

令和3年度末に「熊本県障害者スポーツ・文化協会」はコンソーシアムから離脱したものの、団体の目的を同じくしていることを理解いただき、令和5年1月に再加盟に至った。

そして令和5年2月、本コンソーシアムは活動内容を明確に社会に伝えるため、その名称を「パラスポーツくまもと」と改称した。

《 パラスポーツくまもと (しょうがいスポーツリンクージュくまもと) 》

【全ての人の運動・スポーツを通じた生涯に渡る体づくり・生きがいづくり】



(2) 事業内容

課題解決にはコンソーシアム構成団体において①連携②実践によるノウハウの蓄積③情報の収集と公開が必要であり、特に障がい者本人に繋げるためには③に加えアウトリーチ活動に着手する。

そのためには、コンソーシアム構成団体の連携を深め円滑な事業実施体制を醸成させる一方、新たな支援者・実践者・研究者・当事者団体にもネットワークを拡大する。そして、これらの団体と協働しながら障がい者スポーツ実施に繋がる場・手法の情報を熊本県下全域の障がい者に届ける。

その過程として当初、初年度は南関町が属する有明圏域対象地域として、相談支援専門員や福祉施設等事業所等とのネットワークづくりを重視するとしたが、事業の進捗状況から熊本県全域へと拡大。

将来的には代表機関であるNPO法人A-lifeなんかんが、熊本県北の拠点、広くは熊本全域まで見据えた【多様な対象・多様な志向】の障がい者スポーツの窓口・繋ぎ手の役割を担うことで、障害のある・なしに関わらない多層的なスポーツ推進、いわば切れ目のないアダプテッドなスポーツ環境づくりを目標とする。

- 1 福祉・教育・競技団体等との連携についての具体的な取組
 - ア. コーディネーター配置事業検討会議の実施
 - イ. コーディネート準備事業

- 2 コーディネーターに求める資質・資格等の要件
 - ア. コーディネーターの選任
 - イ. リンクコーディネートに携わる人材の養成事業

- 3 障害者本人や家族・支援者、スポーツ関係団体・スポーツ施設等からの相談に対応するための窓口についての具体的な取組
 - ア. 支援窓口「パラスポーツくまもと」の開設事業
 - イ. コーディネート事業

3 事業効果

障がい者スポーツコンソーシアムの立ち上げから3年目となり徐々に連携体制が定着してきた。構成団体これまでそれぞれの団体で培ったノウハウや見識を生かし、スポーツ未実施の障がい者に対するスポーツ提供体制の整備を前進することができた。

コーディネート機能確立の過程で、コンソーシアムの質向上と従来の構成団体に加え新たな支援者・実践者・研究者・当事者団体にネットワークを拡大することができた。団体間で協働しながら障がい者のスポーツ実施に繋がる場・手法の情報を障がい者本人と支援者に届けるための情報発信を続けることで次第に認知度も高まり、直接の相談が寄せられるなどアウトリーチ活動にも着手することができた。

本事業の効果の検証にあたり、コンソーシアムを最大限に活かした検証・改善サイクルを用いて、熊本県内の障がい者の運動・スポーツ実施の現状の把握と実施率向上を目指した取り組みを実施し、障がい当事者・障がい者の支援者・スポーツ関係者の観点から見て指標を用いて評価した。

◎地域における障がい者の年間の運動スポーツ機会の向上

○上記目標の達成に寄与する次の評価指標として以下を挙げる。

- ・連携できた福祉・教育・スポーツ団体等の数は新規4団体、再加盟1団体、検討中1団体
- ・本事業で実施したヒアリング調査 18件
- ・本事業で実施したスポーツ活動相談や紹介数 10件

4 まとめと今後の課題

今回障がい者スポーツ振興の状況把握に努めたが、熊本県北の有明圏域においては障がい当事者のスポーツ実施に係る現状の課題把握やニーズ調査が十分とはいえない状況であった。障がい者本人にとって運動・スポーツができるような受け入れ態勢も整っていないのが実情である。

事業を推進する過程で、障がい者スポーツを推進するためには福祉分野とスポーツ振興分野の一層の連携を促しその他支援団体等の協働を進めていく体制づくりの核となる推進団体の存在、つまり本コンソーシアム「パラスポーツくまもと」のような団体が重要であるということが改めて明らかになった。障がい者本人とその家族と運動・スポーツ活動の場の「つなぎ手」が必要である。

この度整備したパラスポーツコーディネート体制を継続するには、障がい者のスポーツ実施のきっかけづくりから継続へと繋げるパラスポーツコーディネーターの細やかな介入（調査・相談・計画・フォロー）が必要であり、コーディネートをチームで行うことが鍵であると考えられる。

今後コーディネート体制の継続には事業化が不可欠である。福祉部局・スポーツ振興部局双方からの公的支援や事業としてのアウトソーシングを提案しており、行政から案件の打診も得られるようになった。一方、スポーツ実施にあたる経費は受益者負担という考えの浸透も必要である。これらの中間支援として、まずは支援窓口を下支えするスポンサーを募り事業の持続モデルを構築したい。加えて本事業のPRにも一層力を注ぎ広く認知されることにより地域の共生意識の高揚を促し、資金協力・会場提供・ボランティア等のサポートについても地域に密着した展開を目指したい。

II 実行委員会

1 会議の目的

設立し3年目を迎える障がい者スポーツコンソーシアム「パラスポーツくまもと（旧 しょうがいスポーツリンクージくまもと）」構成団体の更なる連携の基盤づくりを進め、障がい者が身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備を行う。

2 検討事項

- ・事業の適合性や各事業の取り組みの進捗状況の確認
- ・成果と課題改善点の協議並びに共有
- ・障がい者のスポーツ実施機会拡大の推進

3 構成員

会議にあたる構成員は同コンソーシアム構成団体および研究者・協力者から成る。

- ・障がい者スポーツ団体（県規模）×1名
- ・障がい者スポーツ指導者団体（県規模）×1名
- ・地域スポーツ団体（県規模）×2名
- ・地域スポーツ団体（町規模）×3名※事務局
- ・社会福祉団体（町規模）×1名
- ・行政・教育（町規模）×5名※福祉・社会体育 各2名、教諭1名
- ・研究者（大学教授）×1名
- ・アドバイザー（大学教授）×1名
- ・コーディネーター配置事業アドバイザー×1名



	氏名	所属・職名	備考
1	辻 啓司	熊本障がい者スポーツ指導者協議会/会長	【座長】
2	福永 賀友	熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会/理事長	【副座長】
3	中尾 直道	熊本県障害者スポーツ・文化協会/嘱託職員	R5.1 再加盟
4	太田黒尚子	熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会/事務局	加盟団体の連絡調整
5	永野 典詞	九州ルーテル学院大学/副学長	調査研究
6	行實 鉄平	久留米大学/准教授	アドバイザー
7	西田 政博	南関町/福祉課 課長補佐	福祉事業情報提供
8	永松 なな	南関町/福祉課 主事	
9	橋本 健	南関町/教育課 係長	社会体育担当課
10	美奈川 徹	南関町/教育課 主事	
11	寺嶋 哲也	南関町第四小学校/特別支援学級 特別支援主任	
12	猿渡 涼	南関町社会福祉協議会/地域福祉係	福祉スポーツ担当
13	原口 護	NPO 法人 A-life なんかん/理事長	
14	山田 健次	NPO 法人 A-life なんかん/ゼネラルマネジャー	事業の企画提案
15	西田 由実	NPO 法人 A-life なんかん/事務局長	コーディネーター
16	山本 行文	日本パラスポーツ学会 監事	事業アドバイザー

4 成果及び評価

(1) 開催実績等

- ◆第1回 令和4年6月22日(水)／南の関うから館広間
 - ・構成員紹介
 - ・令和4年度事業概要
- ◆第2回 令和4年8月24日(水)／南関町役場庁議室
 - ・新規構成員紹介
 - ・(仮称)リンクステーション(支援窓口)の開設
 - ・コーディネーター人材の養成進捗状況
 - ・コーディネーター準備事業の進捗状況
 - ・コーディネーター事業のサポート組織の構想
- ◆第3回 令和4年12月16日(金)／くまもと県民交流館パレア会議室2
 - ・コンソーシアム運営規約の制定
 - ・他団体協力依頼、加盟依頼の進捗状況
 - ・地域の障がい者(サポートユーザー)コーディネーターに向けた取り組みの報告
 - ・コーディネーター窓口設置に関する報告
 - ・支援窓口案内カード作成
- ◆第4回 令和5年2月28日(火)／くまもと県民交流館パレア会議室2
 - ・コンソーシアム名称変更
 - ・今年度事業の成果と課題の共有
 - ・今年度協力の総合型地域スポーツクラブ、障がい者スポーツ指導者との意見交換
 - ・令和5年度事業計画について



◇オブザーバー参加(第2回・第3回・第4回)

熊本県教育庁体育保健課 指導主事 有働秀樹 氏

熊本県健康福祉部障がい者支援課 主任主事 野田綾子 氏

(2) 成果

令和2年度にコンソーシアム結成後、同3年度末に「熊本県障害者スポーツ・文化協会」は一旦脱退したものの、今年度終盤において本コンソーシアムの趣旨に改めて賛同し加盟されたことは大きな成果である。「熊本障がい者スポーツ指導者協議会」「熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」と合わせ基幹3団体としながら、障がい者スポーツ推進への取り組みに向けて、全ての構成員から助言や提案が寄せられるなど協力関係が発揮された。事業を進める上で、構成員の特徴を活かし相談できる関係性が活かされ、柔軟かつ素早い対応ができた。

また、今年度このコーディネーター配置事業のアドバイザーとして日本パラスポーツ学会監事の山本行文氏を迎え、事業全般に的確な助言を得た。それにより、コンソーシアムの組織強化から協力団体の増加へと繋がった。

なお会議にはオブザーバーとして県体育保健課と県障がい者支援課から出席。情報提供・情報交換にご協力いただいた。

Ⅲ 実施事業

Ⅲ-1 福祉・教育・競技団体等との連携についての具体的な取組

(1) 事業の目的

地域における障がい者のスポーツ実施機会を創出し継続するために必要な福祉・教育・競技団体等との連携方法を検討推進する。

(2) 事業の実施概要

ア. コーディネーター配置事業検討会議の実施

イ. コーディネート準備事業

(3) 取組内容

ア. コーディネーター配置事業検討会議の実施

・事業検討会議についてはⅡ. 実行委員会 に記載

イ. コーディネート準備事業

■実施地域：計画では下記①～④の項目において②有明圏域を対象として実施を予定していたが、先行して行った①のヒアリングをふまえ、地域での障がい者スポーツの進捗状況は県下同じであると判断した。したがって①以外は①熊本県全域を対象に拡大して実施することとした。

【エリア】 ①熊本県全域対象

②有明圏域対象 〈2市4町/南関町・和水町・長洲町・玉東町・玉名市・荒尾市〉

- | |
|---|
| <p>①リンクコーディネーターによる障がい者相談支援専門員等へのヒアリング等の実施</p> <p>②リンクコーディネートの実施体制の整備促進</p> <p>③リンクコーディネートプログラムの作成</p> <p>④リンクコーディネートの機能強化</p> |
|---|

①リンクコーディネーターによる障がい者相談支援専門員等へのヒアリング等の実施

・**2**有明圏域でのコーディネートを進めるにあたって、各自治体行政等の取り組みの状況等を収集するためヒアリング調査を実施した。

【行政ヒアリング】・スポーツ振興担当課 ・障がい者支援担当課

■ヒアリング内容

- ・自治体のスポーツ推進計画中の障がい者スポーツの進捗状況
- ・自治体の障がい者福祉計画健康増進・スポーツ分野の進捗状況
- ・行政担当課の連携 ・現在の課題、優良事例、関連当事者団体、事業委託先など

	期日	曜日	時間	自治体	担当課	担当者
1	7月26日	火曜日	13:30	玉名市	スポーツ振興課	酒井裕之
2	7月26日	火曜日	15:00	玉名市	総合福祉課	齋藤由
3	7月26日	火曜日	16:15	玉東町	町民福祉課	上田直紹・村上貴光
4	7月27日	水曜日	13:30	玉東町	社会教育課	西川慧・坂田裕紀
5	7月29日	金曜日	10:30	長洲町	生涯学習課・学校教育課	松永光親・片山直
6	7月29日	金曜日	11:30	長洲町	福祉保健介護課	石橋健太郎・山村喬士
7	8月1日	月曜日	13:30	和水町	福祉課	松尾雄太
8	8月2日	火曜日	9:00	和水町	社会教育課	田浦佑将
9	8月2日	火曜日	13:00	荒尾市	生涯学習課	堺将廣
10	8月2日	火曜日	14:00	荒尾市	福祉課	坂口賢太郎・田上貴子
11	8月2日	火曜日	16:00	南関町	福祉課	永松なな
12	8月23日	火曜日	14:00	南関町	教育課	橋本健

まとめ：

有明圏域（荒尾玉名地域）の2市4町のスポーツ振興担当課と障がい者福祉担当課の行政担当者双方にそれぞれヒアリングを行った。

まず一番に明らかになったのは、どの自治体でも障がい者スポーツを実際に進める体制は整っていないということである。スポーツ推進計画に記載している自治体はあったが、実施に着手している自治体はわずかで、試行的なものがほとんどである。スポーツ推進計画が長く改定されていない自治体もあり、東京オリンピック・パラリンピックを経た今、改定時の充実は期待するところである。同担当者からは、まず健常者のスポーツ実施率の向上への取り組みに重きを置く中で、障がい者スポーツへの知識不足もあり、重要性を感じていながらも後回しになっていることが分かった。

一方障がい者福祉計画においても、障がい者の健康増進・スポーツ活動に触れている自治体はわずかだった。同担当者からは業務が山積する中、生活支援を優先に行い余暇支援は後回しにならざるを得ないこと、個々の活動支援はサービス事業者で提供されるものという意見を聞くことができた。

■行政ヒアリング詳細

1	<p>玉名市スポーツ振興課</p> <p>①自治体のスポーツ推進計画中健康増進・スポーツ分野の進捗状況 現行計画：平成29年3月策定 *スポーツ推進計画を令和4年度に見直す ・市民体育祭ではスポーツ推進委員（約60名）が率先して地域に呼び掛け参加者を募っているが、そこに障がい者が含まれているか把握はしていない ・同委員は地域でのスポーツ指導も行っている ・リニューアルするマラソン大会への参加について （視覚障がい者は必ず伴走者を同伴、車いすは不可）</p> <p>②行政障がい者福祉担当課との連携なし</p> <p>③現在の課題 ・現在は健常者を想定したイベント等に障がいの程度の軽い障がい者から参加を促している状況 ※施設の使用制限等 ・車いす利用について 体育館内／車いすラグビー・車いすバスケットは使用不可）床面の傷の懸念のため トラック／今まで利用実績なし（希望があれば事前協議を要する）</p>
2	<p>玉名市総合福祉課</p> <p>①自治体の障がい者福祉計画中健康増進・スポーツ分野の進捗状況 現行計画：令和3年3月策定 ・障がい者のニーズに合わせ、相談支援事業者・サービス事業者から支援が行われている ・行政から直接の運動・スポーツに関する取り組みは現在なし</p> <p>②行政スポーツ振興担当課との連携なし</p> <p>③現在の課題 ・障がいの認識についてグレーゾーンの方はグレーのままが現状。周知は広報事業のみ ・既に障がい者手帳を取得している者の動向による</p> <p>④現在の取り組み・優良事例 ・障がい者スポーツを実施している他団体の告知の協力は実施している（HPや広報紙）</p>
3	<p>玉東町町民福祉課</p> <p>①自治体の障がい者福祉計画中健康増進・スポーツ分野の進捗状況 現行計画：令和3年3月策定 ・最寄り駅のエレベーター設置などハード面は進めているが、今後ソフト面でのサポートが必要。</p> <p>②行政スポーツ振興担当課との連携なし</p> <p>③現在の課題 ・障がい者のスポーツ推進の困難さを感じる ・行政側ではパラスポーツ等推進のノウハウの蓄積は難しいと感じる ・行政担当者は異動もありサービス事業者のマネジメントには追い付かない</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者理解啓発は行うが、イベント等を行っていない ・団体である身障会会員の減少は、高齢化や情報の多様化も一因であると考えられる <p>⑤関連団体など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症家族の会、発達障がい者の親の会
4	玉東町社会教育課
	<p>①自治体のスポーツ推進計画中健康増進・スポーツ分野の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行計画：平成26年3月策定 *見直しの時期であることを認識している <p>②行政障がい者福祉担当課の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉部局とビーチバレー大会で連携 <p>③現在の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場と指導者 ・スポーツ推進委委員はイベント等の補助を行っているが、今後は支え手の把握が必要 <p>④現在の取り組み・優良事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラアスリート乗松聖矢氏と繋がりがあり、ツインバスケットを週一回の定期活動を町内の公共体育施設で継続実施中（障害者4名健常者3名） ・バスケットゴールを購入し提供 ・自治体が掌握する地域スポーツクラブ「オレンジハート」へツインバスケットの情報を掲載、HPや窓口で紹介している ・学校でパラアスリートの講演会を実施したことでボランティア希望者も獲得できてきた <p>⑤関連団体など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツインバスケットの団体・個人
5	長洲町生涯学習課・学校教育課
	<p>①自治体のスポーツ推進計画中健康増進・スポーツ分野の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行計画：令和3年3月策定 縦割り行政を打破する計画とした <p>②行政障がい者福祉担当課の連携はまだできていない</p> <p>③現在の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の情報が把握できていない <p>④現在の取り組み・優良事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度スポーツ推進委員の研修会として車いすバスケットボールを実施 <p>⑤関連団体など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすラグビーの川島慎一氏が出身の中学校で講演・体験会等を実施 ・総合型地域スポーツクラブ「NPO法人長洲にこにこクラブ」が主管するイベントでパラスポーツを実施
6	長洲町福祉課
	<p>①自治体の障がい者福祉計画中健康増進・スポーツ分野の進捗状況</p> <p>現行計画：平成31年3月策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設のバリアフリー化という面を担当すると認識している <p>②行政スポーツ振興担当課との連携なし</p>

	<p>③現在の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身障協の会員減少（個人で楽しめる余暇活動が増えたのも要因の一つと考える） ・サービス事業者に個人の活動は任せられているため、自治体としての取組はなし <p>④現在の取り組み・優良事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身障会の県大会（ペタンク等）への送迎をワゴン車でサポートしている <p>⑤関連団体など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身障協（町行政が事務局） ・荒尾長洲地域精神障がい者家族会（自主的に講習会など開催中、町の補助金あり） ・手をつなぐ育成会（心身障がい者児の家族会 スポーツ大会など開催）
7	<p>和水町福祉課</p> <p>①自治体の障がい者福祉計画で健康増進・スポーツ分野の進捗状況 現行計画：平成31年3月策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発活動を実施 <p>②行政スポーツ振興担当課との連携なし</p> <p>③現在の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身障会の高齢化と障がいの重篤化 ・療育・発達分野のサービス利用は増えている <p>④現在の取り組み・優良事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身障会の県大会への送迎サポート（グラウンドゴルフ・ペタンク）年2回 ・地域団体主体に各地域でペタンク・グラウンドゴルフなどが盛ん。（地縁での推進） <p>【今後の可能性】就労支援A型・B型のサービス事業者向けとしてのスポーツ推進に糸口があるのではないかと</p> <p>⑤関連団体など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障がい者家族会
8	<p>和水町社会教育課</p> <p>①自治体のスポーツ推進計画で健康増進・スポーツ分野の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行計画：平成23年3月策定 見直しの時期であることを認識している <p>②行政障がい者福祉担当課の連携はないが必要と感じている</p> <p>③現在の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設のバリアフリー化など必要性は感じているが、町財政のコストカットの中、中長期的な改修計画に結び付いていない（障がい者の方のニーズを把握しきれていないことが起因する） <p>④現在の取り組み・優良事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【今後】コロナ以前まで実施していた町民体育祭には障がい者の参加がなかったが、配慮した内容への見直しも可能だろう
9	<p>荒尾市生涯学習課</p> <p>①自治体のスポーツ推進計画で健康増進・スポーツ分野の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行計画：令和4年3月策定（中間見直し）

	<ul style="list-style-type: none"> ・市民2000人アンケートを実施 ②行政障がい者福祉担当課の連携 <ul style="list-style-type: none"> ・推進計画に策定委員に健康づくり所管課を加え、子育てや健診分野の意見を求めた ③現在の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・施設のバリアフリー化がまだできていない ・今年度市政80周年を機に車いすラグビーの市民イベント開催し、施設フロアへの負荷具合を検証する予定 ④現在の取り組み・優良事例 <ul style="list-style-type: none"> ・市体育協会主催で年に一度ボッチャ大会が運動公園で実施されている ・スポーツ推進委員（39名）は指導的立場を目指しており、主催でペタンク大会の実施やボッチャも推進している <p>【今後】障がい当事者へのアプローチは福祉課に協力を依頼する可能性あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者のスポーツ推進は認知度がまだ低いため、啓発活動をスタートしたい
10	荒尾市福祉課
	<ul style="list-style-type: none"> ①自治体の障がい者福祉計画健康増進・スポーツ分野の進捗状況 現行計画：令和3年3月策定 <ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発活動を実施 ②行政スポーツ振興担当課との連携なし ③現在の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・現在自治体主催のスポーツ・レクリエーション等の提供はない ・縦割りの弊害と多業務量から取り組みが進まない ④現在の取り組み・優良事例 <ul style="list-style-type: none"> ・県スポーツ大会の告知は行っている ⑤関連団体など <ul style="list-style-type: none"> ・身体障がい者福祉協会 ・スペシャルオリンピックス
11	南関町福祉課
	<ul style="list-style-type: none"> ①自治体の障がい者福祉計画健康増進・スポーツ分野の進捗状況 <ul style="list-style-type: none"> ・現行計画：R4.3策定 ②行政スポーツ振興担当課とは現在障がい者スポーツコンソーシアムで連携中 ③現在の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・業務量が多く、スポーツに特化した取り組みはしていない ・スポーツ実施のきっかけづくりのために今後も連携の必要性を感じている ④現在の取り組み・優良事例 <ul style="list-style-type: none"> ・町社会福祉協議会と共に福祉スポーツ大会を年に1回実施 <p>【今後】個別に障がい者の集える場づくりの必要を感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生ボランティアの活用も検討したい ⑤関連団体など <ul style="list-style-type: none"> ・身障会

1 2	南関町教育課
<p>①自治体のスポーツ推進計画健康増進・スポーツ分野の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行計画：令和3年3月策定 ・健康増進・スポーツ分野の掲載あり <p>②行政障がい者福祉担当課とは現在障がい者スポーツコンソーシアムで連携中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実務としての連携は不十分で今後進める必要がある <p>③現在の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の福祉・教育のお互いの分野の共通理解の場が少なかった <p>④現在の取り組み・優良事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツコンソーシアムを通じて共通理解の場が提供されたことをきっかけに、それぞれの分野の理解が深まった ・コンソーシアムを通じこれまで「できない」と思っていたことが、改良すればできるのではという発想が生まれるようになった ・使用料の減免はないが、公的な体験会等の要請があれば減免も可 ・【今後】スポーツ未実施の障がい者へのアプローチは、福祉課を通じての告知が必要である。それ以外でも、誰でも参加できるスポーツとして対象を広げ、既存のイベントや福祉スポーツ大会で推進したい 	



【社会福祉協議会ヒアリング】

■ヒアリング内容

- ・自治体の障がい者福祉計画健康増進・スポーツ分野の進捗状況
- ・行政担当課との連携 ・現在の課題、優良事例、関連当事者団体、事業委託先など

	期日	曜日	時間	自治体	担当	担当者
13	8月23日	火曜日	16:00	南関町	地域福祉係	猿渡涼
14	8月25日	木曜日	13:30	和水町	地域福祉係	石原圭悟
15	8月29日	月曜日	10:00	玉名市	地域福祉課	古田康晴
16	8月29日	月曜日	13:00	荒尾市	管理課地域福祉係	野尻大輔
17	9月1日	木曜日	13:00	長洲町	地域福祉係	林邦博・勝原翔太
18	9月2日	金曜日	10:00	玉東町	地域福祉係	寺本純雄・野中和春

まとめ：

有明圏域（荒尾玉名地域）の2市4町の社会福祉協議会ヒアリングを行った。

福祉サービスの提供者でもある社会福祉協議会では、より障がい者の生活に近い話を聞くことができた。しかし前述の行政ヒアリングと同じく、運動・スポーツの提供となると状況は変わらず、スポーツ大会への送迎やイベントの支援は行っているものの、個々に対応した継続的な運動・スポーツ機会を提供している事例はなかった。

担当者からは余暇支援は重要ではあるという認識の高さが聞き取れたが、障がい者本人からの要望は生活支援が主で運動・スポーツの相談はないという。

身体障がい者福祉協議会の事務局を担っている社会福祉協議会も多く、会員の高齢化に伴い活動の衰退化が課題である。若年層には違った形での余暇支援の情報提供の必要性も感じられており、スポーツ等相談機関（プラットフォーム）が整備されるならば、よい循環が生まれるだろうとの期待も寄せられた。

■社会福祉協議会ヒアリング詳細

13	南関町社会福祉協議会
	<p>①所管する障がい者福祉計画やそれに掲載された健康増進やスポーツ等に係る分野の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画への明記なし（提供：地域福祉計画・活動計画 R4.3策定） ・身体介助がメインで、個別のスポーツ等の実施はない <p>②現在の取り組み・優良事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで当事者からスポーツ等支援の要望はなし ・福祉スポーツ大会の開催、フライングディスク機会の提供 <p>③関連当事者団体等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南関町身体障がい者福祉協議会（事務局は社協内）

	<p>④現在の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者が情報を知る機会や外部に新たなかかわりを持つ機会が少ない ・外出に困難を抱えている視覚障がい者が潜在しているかもしれないが把握に至らず ・身障会の会員の伸び悩み <p>⑤障がい者の生活に関して、当事者の声や気づき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族からの相談は金銭管理等にはあるが、スポーツ等余暇活動についてはない <p>⑥地域の障がい者がスポーツ実施に際し利用可能、又は整備が考えられる支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移送支援や後見制度
14	<p>和水町社会福祉協議会</p> <p>①所管する障がい者福祉計画やそれに掲載された健康増進やスポーツ等に係る分野の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画への明記なし(提供：地域福祉計画・活動計画 H31.3策定) ・生活介助など障がい者自立支援事業業務として扱うものがメイン <p>②現在の取り組み・優良事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで当事者からスポーツ等支援の要望はなし ・障がい者スポーツ実施の補助を行った(ブラインドサッカー) / 人権教育分野 <p>③関連当事者団体(連絡先)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和水町身体障がい者福祉協議会(事務局は団体自身が行っている) <p>④現在の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツを知る機会・触れる機会が少ない (特に継続には知る年齢と環境が左右すると思われる) ・身障会の加入減少(若年層にとってメリットが見いだせないのではないか) <p>⑤障がい者の生活に関して、当事者の声や気づき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活に関わるものについてが主な要望である ・放課後等デイサービスでは利用枠の制限があることへの悩み <p>⑥地域の障がい者がスポーツ実施に際し利用可能、又は整備が考えられる支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすが載せられる車両の貸出しは行っているが移動支援は行っていない
15	<p>玉名市社会福祉協議会</p> <p>①所管する障がい者福祉計画やそれに掲載された健康増進やスポーツ等に係る分野の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画への明記なし(提供：地域福祉計画・活動計画 H31.3策定) <p>②現在の取り組み・優良事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで当事者からスポーツ等支援の要望はなし ・発達障害児子育て学習支援(6回)での情報提供 <p>③関連当事者団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉名市身体障がい者福祉協議会 ・障がい者の生活を豊かにする会(車いすユーザー当事者/ボランティアと共に旅をする) ・視覚障がい者の会・スペシャルオリンピックス <p>④現在の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等告知手段の妥当性(ネットでいいのか、情報格差、全盲の場合の対応)

	<p>⑤障がい者の生活に関して、当事者の声や気づき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア連絡協議会の主催で行われるペタリング交流会などは参加者も多く、広がりを感じる。 <p>⑥地域の障がい者がスポーツ実施に際し利用可能、又は整備が考えられる支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移送支援や情報提供（音声情報）
16	荒尾市社会福祉協議会
	<p>①所管する障がい者福祉計画やそれに掲載された健康増進やスポーツ等に係る分野の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画への記載あり（荒尾市障がい者計画 H30.3策定） <p>②現在の取り組み・優良事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのスポーツ等支援 ・運営する福祉センターで軽運動を提供している ・コロナ流行前は県スポーツ大会などへ参加者を送り出していた ・福祉スポーツ大会の開催、フライングディスク機会の提供 <p>③関連当事者団体（連絡先）</p> <p><令和3年度荒尾市身体障がい者福祉連合会>が解散</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒尾市身体障がい者協会・視覚障がい者協会・聴覚障がい者協会の3団体で活動中 ・荒尾長洲精神障がい者協会 ・手をつなぐ育成会・発達障がい親の会 ・スペシャルオリンピックス <p>④現在の課題</p> <p>なし</p> <p>⑤障がい者の生活に関して、当事者の声や気づき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援学校が進路指導の卒業後もフォローをされていることを感じる ・現在利用されているサービスで満足されているのではないかと <p>⑥地域の障がい者がスポーツ実施に際し利用可能、又は整備が考えられる支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援ボランティアの紹介、ヘルパー同行、移送支援
17	長洲町社会福祉協議会
	<p>①所管する障がい者福祉計画やそれに掲載された健康増進やスポーツ等に係る分野の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画への明記なし（提供：地域福祉計画・活動計画 R2.3策定） ・生活支援の利用はあるが、スポーツに特化した事業はない。 <p>②現在の取り組み・優良事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすバスケット車いすを地元企業フジライトメタルが製作、体験会時に貸出しあり。 ・身障会へは活動費の助成、その他団体を含め行事協力等 ・クリーンウォークイベントでは就労支援事業所を起点・終点とするコースもあり、地域一体となった活動として障がい者の健康増進にも寄与している。 ・地域福祉委員が各地域の活動を支えている。 <p>③関連当事者団体（連絡先）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長洲町身体障がい者福祉協議会 ・社会福祉法人ひまわりの里 ・NPO法人スローステップ <p>④現在の課題</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・身障会の高齢化 ・外出の不安感を取り除くちょっとした取り組みや工夫の必要を感じている ・一緒にスポーツのできる環境づくり ・若い障がい者が外出したくなるようなコンテンツ・活動が必要 <p>⑤障がい者の生活に関して、当事者の声や気づき なし</p> <p>⑥地域の障がい者がスポーツ実施に際し利用可能、又は整備が考えられる支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移送支援、外出支援（車の貸出しあり）・介護予防事業への誘導
18	玉東町社会福祉協議会
	<p>①所管する障がい者福祉計画やそれに掲載された健康増進やスポーツ等に係る分野の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画への明記あり（玉東町障がい者計画 R3.3策定） <p>②現在の取り組み・優良事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラスポーツ体験会の実施 車いすバスケットに関連しパラアスリート講演会(リモート)や体験会を町内の学校で実施 <p>④現在の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉東町身体障がい者福祉協議会は令和4年度休止 （新規加入者がいないのはメリットを感じられないからなのか） ・ケア相談支援員が町内にいないこと ・就労している障がい者の余暇活動の提供ができていない <p>⑤障がい者の生活に関して、当事者の声や気づき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の生活が忙しいのか新たな希望はない ・スポーツは「きちんとしなければならない」「勝利主義」のイメージなのか。 <p>⑥地域の障がい者がスポーツ実施に際し利用可能、又は整備が考えられる支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移送支援（福祉タクシー）紹介 ・災害時の情報提供の調査中（避難行動要支援者向け）LINE情報提供の確認 ・認知症カフェ（月1回）は、多様な人が混ざり合う場所としてスポーツ提供の場になるのではないか



②コーディネートの実施体制の整備促進

パラスポーツくまもとをコーディネート体制のハブ(中核)に据え、今年度は協力団体を福祉・医療・当事者団体にも拡大することができ連携体制を充実させた。しかしこれが完成形ではなく、今後も必要に応じて協力団体を拡大しコーディネート体制を充実していく予定である。

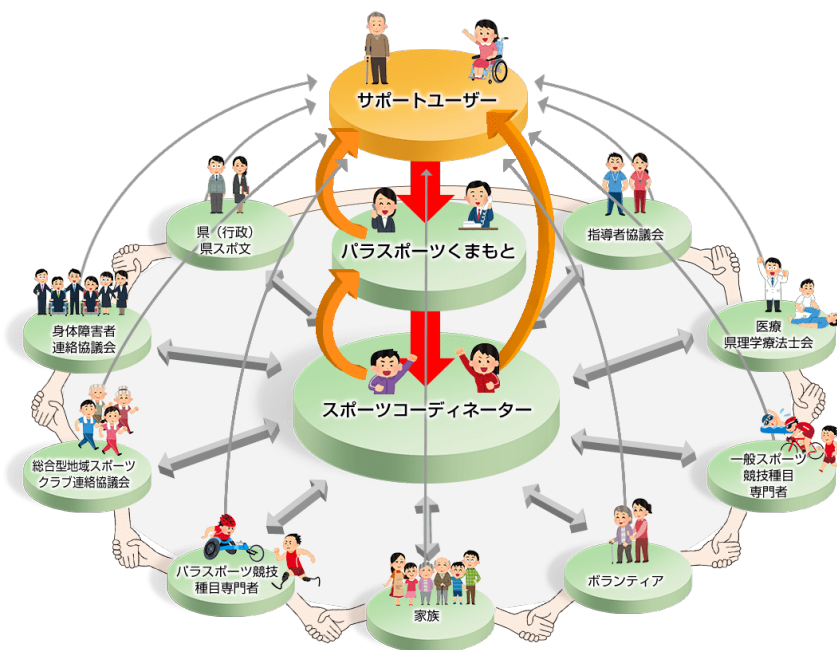
■福祉・スポーツ・医療等の多職種から構成されるチームの設置

【パラスポーツくまもと機関団体・協力団体】

	団体名	備考
【機関団体】		
	熊本障がい者スポーツ指導者協議会 【基幹団体】	
	熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 【基幹団体】	
	熊本県障害者スポーツ・文化協会 【基幹団体】	再加盟
	九州ルーテル学院大学	
	久留米大学	
	南関町	
	南関町社会福祉協議会	
	NPO 法人 A-life なんかん	
【協力団体】		
	公益財団法人 熊本県理学療法士協会	新規
	社会福祉法人 熊本県身体障害者福祉団体連合会	新規
	特定非営利活動法人 ソーシャルインクルージョン研究センター	新規
	特定非営利活動法人 ひとつくり JAPAN ネットワーク	新規

■パラスポーツくまもと コーディネート体制図

・図で複数の矢印が障がい者（サポートユーザー）へ向かっているのは、主体が障がい者であり、コーディネートが決して一方的でないことを示している。



■各自治体における障がい者スポーツおよび障がい者福祉支援者等との連携強化

パラスポーツくまもと機関団体・協力団体との連携により、幅広い団体との接点を得ることができ、より障がい者に近い支援者へ情報を提供することができた。

期日	会議名等	内容	担当
令和4年 8月3日	くまもと・高齢者や障害者にやさしいまちづくり推進協議会	情報収集と支援に向けた取り組みの紹介	西田
令和5年 2月13日	玉名圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会	支援窓口の紹介と紹介カードの配布	西田
令和5年 2月15日	有明圏域障がい者と共に生きる支援協議会定例会議	支援窓口の紹介と紹介カードの配布	西田
令和5年 2月21日	障がい者福祉自治体担当者会議	県内担当者会議での支援窓口紹介とカード配布	山本
令和5年 3月10日	熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会	県内加盟クラブに支援窓口カード配布ほかパラスポーツ情報提供	西田

③コーディネートプログラムの作成

コーディネートを進めるために、パラスポーツコーディネートのステップを以下とした

相談 → 計画 → 実行 → 継続 → 相談…

コーディネートの流れ：

- 1：障がい者（サポートユーザー）やその関係者が支援窓口であるパラスポーツくまもとへ相談。
 - 2：パラスポーツくまもとからパラスポーツコーディネーターチームへ照会をし、その個人に合った運動・スポーツ等を検討。
 - 3：本人へフィードバックした後、本人の希望に合わせ、実行へとつなぐ。
 - 4：実行後の感想を基に、継続の方法を検討（相談）する。
- パラスポーツコーディネーターチームは必要とケースに応じて協力団体へ依頼し協働を進める。
 - 実行にあたっては初回参加の同行など運動・スポーツ活動が円滑に行われるようサポートする。

④リンクコーディネートの機能強化

■コンソーシアムの名称変更 本コンソーシアムのコンソーシアムの活動内容がより伝わるよう名称を「パラスポーツくまもと」に改称

■支援窓口体制を充実

- ・支援窓口についてはⅢ-3アに記載

(4) 成果及び評価

障がい者スポーツに特化して有明圏域の自治体や社会福祉協議会へヒアリングが行われたのは担当者の反応を照らしても初めてのようであった。ヒアリングを通して、障がい者本人のスポーツは余暇支援としても健康増進としても重要であるということの問題提起できたと考える。

コーディネート実施体制を整備する中で、コンソーシアムを外部団体から信用に足る組織と認識されるために、コンソーシアム自体の体制づくり（規約の整備）など内部の強化を進めたことも大きな前進であった。この体制づくりを経て、新たな団体から協力連携の承諾を得られたことは今後の展開の広がりにつながる。

Ⅲ-2 コーディネーターに求める資質・資格等の要件

(1) 事業の目的

障害者スポーツの実施環境についての課題の把握及び解決すべき目標を設定し、目標の達成に向けた事業を実施するため、福祉・教育・競技団体等との連携を中核的に担うコーディネーターを選任する。

(2) 事業の実施概要

ア. コーディネーターの選任

イ. リンクコーディネートに携わる人材の養成事業

(3) 取組内容

計画では事業期間前半にリンクコーディネーターを複数名に確保する予定であったが、コロナ禍もあり人選は難航した。よって、当初のリンクコーディネーターである西田由実と事業アドバイザー山本行文が連携し、障がい者をスポーツ実施に繋げるコーディネート事業を担った。後半、再度選任方法の検討を重ね、後述のパラスポーツコーディネーター制度導入へと進展させた。

ア. コーディネーターの選任

i リンクコーディネーター

■リンクコーディネーターは代表機関NPO法人A-l i f e なんかん所属の西田由実

■リンクコーディネーターの資質・資格要件：

- ・障がい者スポーツ指導員(中級)の資格を有し、熊本障がい者スポーツ指導者連絡協議会にも加入し活動している。
- ・所属法人が南関町から受託する児童クラブ事業に関連し放課後児童支援員認定資格を有する。障がい児の育成支援等について知見あり。
- ・同様に受託する一般介護予防事業において高齢者向け運動指導や地域の健康増進活動をコーディネートしている。
- ・(公財)日本スポーツ協会の公認クラブマネージャー資格を有し、地域スポーツ活動のコーディネートをを行っている。
- ・(公財)熊本県スポーツ協会総合型クラブ部会員
- ・玉名市玉名圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員

ii パラスポーツコーディネーター

■パラスポーツコーディネーターの資質・資格要件：

- ・熊本県内在住の上級障がい者スポーツ指導員資格保持者
- パラスポーツコーディネーター登録者 7名(令和5年3月現在)
- ・パラスポーツコーディネーターについてはⅢ-3に記載

イ. リンクコーディネーターに携わる人材の養成事業

リンクコーディネーターの資質向上のためのアドバイザー招聘および視察研修

i 事業全体のアドバイザーを迎え、運動・スポーツの紹介や指導者・支援者の情報、運動・スポーツプログラムへの障がい者の参加募集方法等についてアドバイスをすることで事業の円滑な推進を促す。

■事業アドバイザー 山本行文氏

略歴：日本の車いすアスリートの先駆者。熊本県出身。車いすマラソンの選手として、ニューヨーク・アイレスベリーパラリンピック（1984年ロサンゼルスオリンピック時）以降3回のパラリンピックに出場。1983年～1992年シーズンの車いすマラソン日本記録保持者。職業は、医療ソーシャルワーカーとして勤務（1986～2021年）。現在も若手選手へのコーチング、アドバイスやサポート、全国各地での講演活動、スポーツを通じた社会福祉に関する啓発などを行っている。

日本パラスポーツ学会監事、熊本障がい者スポーツ指導者協議会副会長

■アドバイス方法：アドバイザーとのミーティングは定例化して実施した

- ・期間 令和4年6月～令和5年3月
- ・頻度 毎週2回 1時間/回
- ・オンライン会議システム（Zoom）を利用したミーティングがほとんどであった。
- ・事業の推進方法の協議と内容精査、進捗状況に対するアドバイス。実際の連携団体の選定および連携方法の確立。こまやかなミーティングを重ねることで、事業を進める中でも改善案を生み出すことができた。このほか実際の個別相談案件の訪問時の現地同行も行った。

ii 体制構築の参考となる先進地の取組を学ぶための視察研修の実施

【鹿児島県障害者スポーツ協会】

- ・訪問者 リンクコーディネーター西田由実
- ・期 日 令和4年8月26日
- ・訪問先 鹿児島県障害者スポーツ協会 事務局長 前田究 氏
- ・内 容 障がい者の地域でのスポーツ実施に向けた地域展開の先進事例と現状について伺った。離島での地域展開に総合型地域スポーツクラブを活用した事例紹介。障害者スポーツ協会の強みと総合型地域スポーツクラブの強みを融合した担い手人材育成と継続の手法に、熊本でもアレンジした導入実施の可能性を感じた。





【新潟県十日町市・NPO法人ネージュスポーツクラブおよび新潟県障害者スポーツ協会】

- ・訪問者 事業アドバイザー山本行文・リンクコーディネーター西田由実
- ・期 日 令和4年11月8日
- ・訪問先 新潟県十日町市・総合型地域スポーツクラブNPO法人ネージュスポーツクラブ
十日町市教育委員会教育文化部スポーツ振興課 課長 庭野日出貴 氏
NPO法人ネージュスポーツクラブ 事務局長 関口芳平 氏
十日町Unity ヘッドコーチ 松永哲一 氏
十日町アクティブスポーツ 副代表 福原芳昭 氏
- ・内 容 同市の総合計画からスポーツ推進に関する政策について庭野氏から説明。生涯スポーツに障がい者のスポーツ機会の創出が明記されている。実働に力を注いでいるNPO法人ネージュスポーツクラブの関口事務局長からは障がい者スポーツのみならず共生社会を目指すための普及から実働にいたるまでの取り組み状況を、サークル指導者から障がい者スポーツサークルの目的や運営状況の報告を受けた。その後車いすバスケットボールとボッチャの実際の活動の様子を見学した。ここでは共に楽しむスポーツとしての実践について多くを学んだ。

- ・期 日 令和4年11月9日
- ・訪問先 新潟県障害者スポーツ協会 事務局長 長谷川寿史 氏
- ・内 容 新潟県内の障がい者スポーツの推進状況について話を伺った。障がい者のスポーツ実施の支え手となる「公認障がい者スポーツサポーター制度」については、障がい者スポーツ指導者資格とは別にサポーターへの一歩を踏み出す人を増やし、さらに高めたい人が指導者資格をとるというステップを踏むことができる好事例であり、今後参考にしたいところである。



Ⅲ - 3 障害者本人や家族・支援者、スポーツ関係団体・スポーツ施設等からの相談に対応するための窓口についての具体的な取組

(1) 事業の目的

障がい者のスポーツ実施に繋がる相談に対応するための窓口について具体的に取組む

(2) 事業の実施概要

ア. 支援窓口「パラスポーツくまもと」の開設事業

イ. コーディネート事業

(3) 事業の取組内容

■実施地域：計画では下記ア①～④の項目を①熊本県全域対象、イ①～⑥を②有明圏域対象に実施を予定していたが、Ⅲ-1 イの準備事業をふまえて、地域を限定せずア・イともに①熊本県全域に拡大して実施することとした。

【エリア】 ①熊本県全域対象

②有明圏域対象〈2市4町/南関町・和水町・長洲町・玉東町・玉名市・荒尾市〉

ア. 支援窓口「パラスポーツくまもと」の開設事業

①障がい当事者の相談窓口設置

②リンクコーディネーターが関係機関と連携して訪問等支援を行うことにより、適切な機関・団体につなぐ

③自治体単位の支援機関の取組支援

④福祉・スポーツ・医療等の多職種から構成される【リンクコーディネーターチーム】の設置

①障がい者本人の支援窓口設置

【常設窓口】

■設置場所：本事業を県下全域で推進するにあたり代表機関であるNPO法人A-lifeなんかん内にその支援窓口となる「パラスポーツくまもと」を設置。

■「パラスポーツくまもと」概況

・所在地：熊本県玉名郡南関町大字関町1283番地 NPO法人A-lifeなんかん内

・TEL：0968-87-8500（専用） FAX：0968-57-9617

・E-mail：parakuma2023@gmail.com

・開設曜日・時間：土日祝日を除く平日／午前9時～午後5時

・相談方法：来所、電話、メール、FAX

■支援窓口「パラスポーツくまもと」は、家族・支援者、スポーツ関係団体・スポーツ施設等からの相談にも応じる。また支援窓口のほかコンソーシアムの事務局も兼ねる。



■開設スケジュール

期日	内容	備考
令和4年6月	委託事業開始と共に開設準備	
令和4年7月	専用電話回線の開設	0968-85-8700
令和4年7月	支援窓口としての試験運用開始	
令和5年1月	専用メールアドレスの取得	parakuma2023@gmail.com
令和5年4月*	公式ホームページ開設予定	

【移動型相談窓口】

期日	内容	会場	来場者数
令和5年 9月4日(日) 午前	※パラスポーツ体験を併設した相談窓口開設 準備／市民向けイベント視察	八代運動公園 (八代市)	—
令和4年 9月24日(土) 午後	パラスポーツ体験を併設した相談窓口開設 ・車いすジョギング&パラスポーツ体験DAYに併設	えがお健康スタジアム(熊本市)	157名
令和4年 10月30日(日) 終日	パラスポーツ体験を併設した相談窓口開設 ・なんかんスポーツDAY	南関町防災広場 (玉名郡南関町)	122名
令和5年 1月29日(日) 12時～15時	パラスポーツ体験を併設した相談窓口開設 ・商店街内でボッチャのデモンストレーションを併設し相談窓口を開設	オモケンパーク (熊本市)	15名



第35回 くまもと車いす 挑戦・体感・実感
ふれあいジョギング大会
& パラスポーツ体験Day
令和4年9月24日(土) えがお健康スタジアム

車いす持参でなければ誰でもOK!

目録
750m 生活用車いすの部
3km 生活用車いすの部
5km 競技用車いすの部

日程
9:30 受付開始
11:00 開会式
11:10 競技スタート
12:10 昼食交流会
12:40 大抽選会

ゲスト パラスポーツ体験
浦田理恵 黒田智成
受付 12:30～
体験時間 13:00～15:00
不織布マスク着用

パラスポーツ体験種目
車いす陸上 ■視力障害陸上 ■切断者陸上
ゴールボール ■フライングディスク ■ボッチャ
車いすバスケットボール ■フライングディスク
チームライフ

自由参加
誰でも体験できます

キッズカー
お貸し出し

締切り:令和4年9月10日(土)必着
申込先-問い合わせ先
熊本県障害者スポーツ文化協会
〒861-8039 熊本県南区長崎南 2-3-2
TEL:096-383-6553 FAX:096-383-6554
Mail:kumamoto.s.c.a.d@mms.bbq.jp

【主催】 熊本県障害者スポーツ文化協会、熊本県東ライオンズクラブ、
熊本県スポーツ振興事業団・ミズノグループ

【協賛企業】 (株)イシヌキ (特非)A-lifeなんかん (株)河田印刷
(株)熊本銀行 暖レンタルサービス 明新工業(株)

<https://sites.google.com/view/kumamatsureai/>

②リンクコーディネーターが関係機関と連携して訪問等支援を行うことにより、適切な機関・団体につなぐ

- ・実績等は以下イ．コーディネート事業に記載

③自治体単位の支援機関の取組支援

■相談のあった自治体等

- ・玉名郡長洲町（指導者の派遣について）
- ・上天草市（教室開催方法等について）
- ・長崎県スポーツ協会（総合型地域スポーツクラブでのパラスポーツの取組について）

④福祉・スポーツ・医療等の多職種から構成される【リンクコーディネーターチーム】の設置

Ⅲ-1 ii コーディネートの実施体制の整備促進に記載

- ・リンクコーディネーターチームはコンソーシアム【パラスポーツくまもと】がその役割を担う。

イ．コーディネート事業

- ①相談内容に応じて、適切な関係機関へつなぐ
- ②照会内容によってはスポーツ実施会場への同行実施
- ③アウトリーチ支援のためのコーディネーターサポーター「パラスポーツコーディネーター」を配置
- ④障がい者のスポーツ実施の環境づくり、障がい者スポーツ教室開設情報の集約と発信を行う
- ⑤障がい当事者が参加しやすい環境づくり、運動・スポーツ体験の創出、障がい者の家族に対する相談や啓発
- ⑥調査研究や広報の実施

上記①②④⑤について

今年度はリンクコーディネーターと事業アドバイザーが関係機関と連携して訪問等支援を行うことにより、適切な機関・団体につないだ。



■コーディネーター実績

	対象者・相談者	相談	経過
1	視覚障がい者 (熊本市)	ゴールボールを実施する会場と同サークルの設立について相談	8月に会場確保などの相談。総合型地域スポーツクラブ内でのサークル立ち上げを勧め、協議を重ね設立。9月活動開始。 現在、南関町で定期活動中。
2	視覚障がい者 (熊本市)	運動経験のない高校生 スポーツを楽しませたいとの保護者希望	上記1. のゴールボールサークルに並行して、隣接コートでゴールボール体験を実施。 環境が好みと合わず継続には繋がっていない。
3-1	総合型地域スポーツクラブ嘉島湧く湧く元気クラブ (嘉島町)	車いすユーザーのクラブ会員に車いすバスケットボールを体験させるための体験会開催希望	車いすバスケットボールサークルに講師を依頼し、嘉島町内体育館で体験会を実施。障がいの有無に関わらず会員と共に楽しんだ。 1月26日/嘉島町民体育館
3-2	上記1の体験をした車いすユーザーAさん	車いすバスケットボールの継続を希望	ツインバスケットサークルと陸上教室を紹介。現在ツインバスケットサークルで活動中。
3-3	上記1の体験をした車いすユーザーBさん	スポーツの継続を希望	ボッチャサークルを紹介。現在のところ参加なし。今後継続して紹介予定。
4	熊本県立かもと 稲田支援学校 (山鹿市)	高等部2年生の授業の一環として、卒業後の生涯スポーツの窓口である総合型地域スポーツクラブの情報提供と障がい者スポーツ体験を希望	総合型地域スポーツクラブの参加方法と併せ、支援窓口の紹介。 学校でも取り入れられるよう、フットソフトボールを体験。 2月8日/学外活動で南関町へ来訪
5	総合型地域スポーツクラブ フネッピーすこやかスポーツクラブ (御船町)	地域の放課後等デイサービス施設から依頼により運動機会提供することになったため、指導法の注意点等相談	指導上の心構えなどのアドバイスを提供。障がい者指導者協議会やコンソーシアムから指導法等のサポート継続。 2月下旬

③アウトリーチ支援のためのコーディネーターサポーターを配置

これらの支援において重要なつなぎ手となるコーディネーターサポーターを今後増やすため、その名称を「パラスポーツコーディネーター」とし体制整備を行った。

県内在住の11名の資格保持者のうち7名が活動に賛同し登録。

■パラスポーツコーディネーターの要件：上級障がい者スポーツ指導員資格保持者

■パラスポーツコーディネーター制度整備スケジュール

期日	内容	備考
令和5年1月	コーディネーターサポーター制度の検討	
令和5年2月10日	パラスポーツコーディネーター登録依頼発送	熊本障がい者スポーツ指導者協議会へ発送依頼
令和5年3月2日	パラスポーツコーディネーター説明会議	
令和5年3月10日	コーディネーター相談受付票検討会議	オンライン

・パラスポーツコーディネーター会議

期 日 令和5年3月2日(木)午後7時～

会 場 熊本県身体障がい者福祉センター会議室

- 内 容
1. メンバー紹介
 2. パラスポーツコーディネーター制度の経緯および概要
 3. 出席者の現在の活動状況
 4. 今後の活動 (①登録意思の確認 ②連絡方法 ③コーディネーター方法の構築)

・コーディネーター相談受付票検討会議

期 日 令和5年3月10日(金)午後7時～

会 場 オンライン会議システム (zoom)

- 内 容
1. 相談受付票の内容検討
 2. 同意書の取得について検討

経 過

- ・オンラインに対応のできないメンバーに対してはFAXやSNSアプリを使い、事前に意見を求めた。
- ・同意書についても取得することとした。

■相談受付票 様式

パラスポーツくまもと【サポートユーザー】相談受付票	
初回相談日	年 月 日
受付方法	TEL・FAX・E-mail・ホームページフォーム
相談者	本人・家族・関係者
相談種類	1. きっかけづくり(自分に合うものを知りたい) 2. 種目体験 3. 指導者派遣 4. 情報収集
パラスポーツコーディネーターへ情報提供等	1. 情報提供 承諾済(月 日)・承諾未確認 2. 自宅訪問(承諾 可・否・検討中)
氏名(カナ)	()
本人連絡先	TEL: E-mailほか:
本人住所	〒
生年月日	年 月 日
病 名	
手帳番号	県 第 号 種 級
障 害 名	
ADL状況	1. 意志の疎通(可・不可) 2. ADL(自立・一部介助・介助) 3. 移動(車いす・杖・自歩)
相談者氏名(カナ)	本人以外の場合のみ記載 ()
相談者連絡先	本人以外の場合のみ記載 TEL: E-mailほか:
初回返信日	年 月 日 (担当:)
返信内容	1. 検討し回答(回答予定日 月 日) 2. その他:
スケジュール	月 日 ミーティング
	月 日 回答日/対応内容概略 *詳細は別途記入
	月 日
	月 日
	月 日
備考	初回対応:面談・同行 実施時確認:用具の貸出しの有無、経費(参加費・会場費)の承諾

⑥調査研究や広報の実施

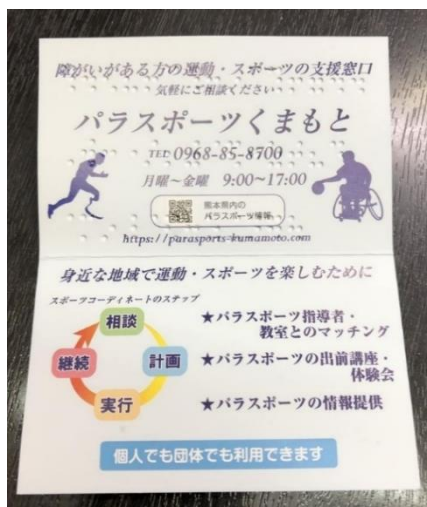
■想定される団体：家族会・当事者会、社会福祉法人、地域スポーツ団体、自治体、社会福祉協議会、スポーツ推進委員など

■広報の方法：

i 支援窓口の利用案内カード作成

支援窓口「パラスポーツくまもと」を紹介するカードを18,000部作成。熊本県内の障害福祉サービス特定相談事業所（125カ所）を中心に支援学校、自治体の障がい者支援担当課、総合型地域スポーツクラブ等熊本県全域の約280カ所に配布した。カードには点字加工を施し視覚障害者にも対応している。

このカード作成に当たってはデザインを障がい者の職業訓練校に依頼。印刷後の点字加工、二つ折り、発送作業についても障がい者就労支援事業所に依頼するなど障がい者の登用を心掛け、スポーツを通じた関係性の拡大にも重きを置いた。



ii その他の広報手段

- ・ SNSの活用。現在しょうがいスポーツリンクージュくまもとで運用しているFacebookページでの情報発信のほか、関係団体HPに掲載を依頼した。
- ・ 支援窓口パラスポーツくまもとの公式ホームページの開設準備中（令和5年4月公開予定）
上記 i の相談をオンラインで受け付けるほか、パラスポーツくまもとの活動状況や団体が所有するパラスポーツ用具の貸出情報などを掲載予定。

(4) 成果及び評価

支援窓口の設置はこの事業で大きな成果である。これまで個別の相談として問合せが寄せられていた。今後窓口を公に紹介できることで、障がい者本人だけではなくその様々な支え手からの気軽な相談先としても利用が見込まれる。窓口は熊本県北の南関町にあるが、今後は熊本市内にあるコワーキングスペースなども活用し、熊本市内での移動相談窓口開設も検討する方向である。

パラスポーツコーディネーターチームについても、登録者からは少しでも障がい者のスポーツ実施に繋がりたいとの気持ちが寄せられ、今後もケースを重ねながらコーディネートプログラム（コーディネートの流れ）を洗練していきたい。

コンソーシアムによるコーディネーター配置

◆目的

熊本に障がい者スポーツを含めた生涯にわたって全ての人々がスポーツを行うことができる「場」を地域につくり定着させ、スポーツを通じた共生社会の実現を目指す

◆障がい者スポーツコンソーシアム「しょうがいスポーツリンケージくまもと」構成団体(①②③は基幹団体)

長①熊本障がい者スポーツ指導者協議会

副②熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

- ・南関町(社会体育・福祉・学校)
- ・南関町社会福祉協議会
- ・九州ルーテル学院大学(研究者)
- ・久留米大学(アドバイザー)
- ・NPO法人A-lifeなんかん(代表機関)

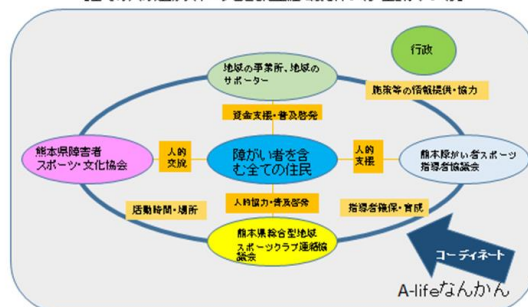
③熊本県障害者スポーツ・文化協会*R5.1再加盟

◇会議 年4回

6月22日、8月24日、12月16日、2月28日

《パラスポーツくまもと(しょうがいスポーツリンケージくまもと)》

【全ての人の運動・スポーツを楽しく生涯に渡る(体づくり・生きがいを)】



◆まとめ

- ・コンソーシアムの質向上と従来の構成団体に加え新たな支援者・実践者・研究者・当事者団体にネットワークを拡大することができた。
- ・団体間で協働しながら障がい者のスポーツ実施に繋がる場・手法の情報を障がい当事者と支援者に届けることで、次第に認知度も高まり直接の相談が寄せられるようになった。
- ・障がい者のスポーツ実施のきっかけづくりから継続へと繋げるにはコーディネーターの細やかな介入(調査・相談・計画・フォロー)が必要である。

障がい者スポーツコーディネート概要



1.コーディネーター準備事業

(1)コーディネーターによる障がい者支援者への訪問支援等の実施

➡自治体担当者等へのヒアリングと情報提供
対象:2市4町(南関町・和水町・長洲町・玉東町・玉名市・荒尾市)の①自治体障がい者支援担当課②自治体スポーツ振興担当課③社会福祉協議会

(2)コーディネートの実施体制の整備促進

➡i コンソーシアム組織の整備(規約・役員)により、他団体への協力連携依頼に際し信頼を得られた。

➡ii コンソーシアムの連携協力団体の拡大

【新規】●(公財)熊本県理学療法士協会
●(社福)熊本県身体障害者福祉団体連合会
●(N)ソーシャルインクルージョン研究センター
●(N)ひとつづくりJAPANネットワーク

【再加盟】熊本県障害者スポーツ・文化協会

➡障がい者に近い支援者への情報提供

対象:障がい者とともに生きる協議会(行政+事業所)、障がい者支援施設

(3)コーディネートプログラムの作成

相談 ➡ 計画 ➡ 実行 ➡ 継続

(4)コーディネートの機能強化

➡コンソーシアムの活動内容がより伝わるよう

名称を「パラスポーツくまもと」に改称

➡支援窓口体制の充実

2.コーディネーター事業

(1) i 相談者の相談内容に応じて、適切な関係機関へとつなぐ ➡個人・支援学校からの相談に対応

ii 紹介内容によってはスポーツ実施会場への同行実施 ➡アウトリーチ支援のコーディネーターサポートは適切な人材発掘に至らず、今年度はアドバイザーとリンクコーディネーターが行った

(2)障がい者のスポーツ実施の環境づくり、障がい者スポーツ教室開設情報の集約と発信を行う

➡パラスポーツの活動会場のあっせんと総合型地域スポーツクラブでのサークル立ち上げをサポート。

(3)障がい当事者が参加しやすい環境づくり、多様な運動・スポーツ体験の創出、障がい者の家族に対する相談や啓発

➡i パラスポーツ体験会やデモンストレーション、障がい者が参加するイベントを活用した声かけや紹介

(4)調査研究や広報の実施

➡i SNSや協力団体のHPを活用した情報発信

ii 相談先を知らせる「支援窓口案内カード」の配布
(点字加工を施し視覚障害者にも対応)



支援窓口案内カード
(表紙・二つ折り名刺サイズ)

3.コーディネーター人材養成

(1)コーディネーターの資質を向上させ訪問等によるコーディネート実施

➡i 事業アドバイザー山本行文氏(日本パラスポーツ学会監事)とリンクコーディネーターの週2回ペースのミーティング

➡ii 先進地の視察による情報収集と運営方法の質向上

視察先①鹿児島県障害者スポーツ協会

②新潟県障害者スポーツ協会/十日町市教育委員会・NPO法人ネージュスポーツクラブ

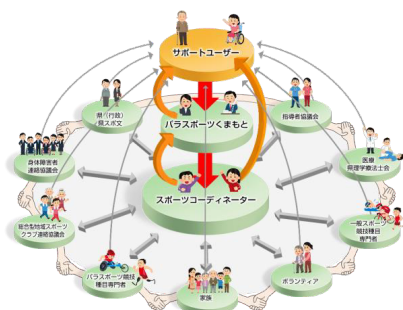
(2)コーディネーター

i リンクコーディネーター 全体コーディネーター

➡NPO法人A-lifeなんかん 西田由実

ii パラスポーツコーディネーター 個別の相談検討

➡上級障がい者スポーツ指導員の賛同者7名登録



4.支援窓口としての「パラスポーツくまもと」開設

(1)障がい者の支援窓口「パラスポーツくまもと」

➡i コンソーシアム事務局であるNPO法人A-lifeなんかん内に相談窓口開設。直通電話も設置。

➡ii 相談先を知らせる「支援窓口案内カード」の配布(点字加工を施し視覚障害者にも対応)

➡iii イベント等に合わせ出張相談窓口設置

※今後相談窓口機能の一環としてHPを開設予定。

(2)リンクコーディネーターが、関係機関と連携して訪問等支援を行うことにより、適切な機関につなぐ

➡リンクコーディネーターのほか、今年度はアドバイザーが支援を行い、興味のあるスポーツだけでなく、多様な種目を紹介し、選択の幅を広げることができた。

(3)自治体単位の支援機関の取組支援

➡新たに取り組みたい地域の支援機関(スポーツ団体等)に対し、パラスポーツ指導者の紹介や、パラスポーツイベント運営ノウハウなど情報提供した。

(4)福祉・スポーツ・医療等の多職種から構成されるコーディネーターチームの設置

※左図参照

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、NPO 法人 A-life なんかんが実施した令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(コーディネーター配置事業)」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。